

農事組合法人 南田中宮農組合（青森県平川市）

組織の概要

- 平成29年に平川市南田中地区を中心とした集落営農組織を法人化
- 構成農家102戸
- 南田中地区を中心に水稻・大豆の輪作体系の確立で農地集約に貢献。
また、年間雇用の確保、後継者育成のほか経理のデジタル管理を導入。
- 農地中間管理機構の活用や計画的な農地取得により区域内約58haのうち90%以上の大豆作付の団地化率を維持



生産概要

- 【作付面積】水稻(飼料用米含む) R2:45.5ha R3:44.9ha R4:32.9ha
大豆 R2:11.6ha R3:12.1ha R4:25.9ha
- 1年1作を基幹としてブロックローテーション（主食用米→大豆→飼料用米→大豆・・・）
- 県の奨励品種で引き合いが強く、多収である「おおすず」の作付を推進している。さらに品質及び収量の向上を目指し湿害対策を徹底している。



取組のポイント

<需要に応じた生産を徹底>

- 津軽みらい農協へ出荷後、全農あおもりを通じ食品加工会社と契約し、煮豆や大粒納豆、豆腐に加工されている。
- 食品加工業者から高い評価を得ている、大粒が特徴の「おおすず」を作付。

<水系別に団地化したブロックローテーションと新技術の導入>

- 水系別に約10ha規模で団地化し、米と大豆を2～3年でローテーション
- 排水の良いほ場を選定し、大豆を集約し作付
- 大豆は種時の湿害による発芽不良対策として、耕うん同時畝立ては種、排水対策（サブソイラーによる心土破碎）を実施



【栽培技術確立による収量確保】

取組成果

<大豆生産の高位安定化を実現>

- 団地化率向上と効率的なブロックローテーションの推進により、作付面積及び団地化面積が増加
（作付面積：R2→R3 0.5ha増→R4 13.8ha増
団地化面積：R2→R3 1.5ha増→R4 13.7ha増）

年産	R2 (R3事業現状)	R3 (R4事業現状)	R4 (R4事業現状)	R5 (R3事業目標)	R6 (R4事業目標)
作付面積(㎡)	115,671	121,111	259,425	150,000	260,000
団地化面積(㎡)	100,782	116,175	253,322	150,000	254,000

- 転作田を団地化し、ブロックローテーションを導入したことや、稲わら等の有機物のすき込みによる地力低下の防止、心土破碎による排水性の改善などで、県平均より高い単収を維持

（単収：R2 257kg/10a→R3 261kg/10a（1.6%増）

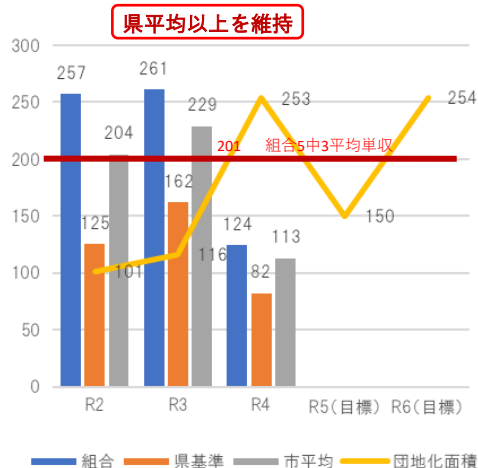
→R4 124kg/10a（52.4%減）※災害による減

※南田中宮農組合過去5か年中中庸3か年平均単収：201kg/10a

（生産量：R2 29.7t→R3 30.5t（2.7%増）→R4 33.2t（8.8%増））

(kg/10a,ha)

大豆平均単収と団地化面積の推移



■組合 ■県基準 ■市平均 ■団地化面積

※作付面積拡大による増